

# 三重県アセアンビジネスサポートオフィス

## <現地レポート（2025年2月発行）>

### アセアンにおけるハラール市場の動向

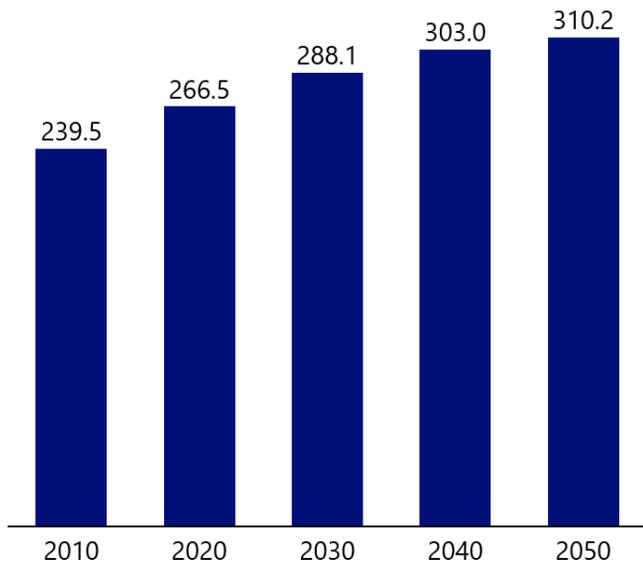
三重県アセアンビジネス展開サポートオフィス（以下、MISA）では、開設以降多くの三重県内事業者の皆様からご相談を頂いておりますが、その中で頻繁にご相談頂いている内容が、アセアン各国の輸入規制や認証などの動向です。アセアンの規制や認証においてトピックスの一つとして挙げられるのが、ハラール認証（該当する製品が製造環境・品質・プロセスについてイスラム法に則った基準をクリアしているという認証）です。本レポートでは、ハラール認証について取り上げていきます。

ハラール認証とは、イスラム教において禁じられているものが、製品やサービスに含まれていないことを客観的な証拠をもって確認し、認証する仕組みです。例えば、食品では豚肉などの摂取が禁じられており、そのような禁じられたものが原料に含まれていない必要があります。また、原料だけではなく、食材の調達や製造プロセスにおいても、清潔さや適切な方法が求められます。

アセアン地域は世界で最も多くのイスラム教徒が居住するエリアの一つであり、特にインドネシア（イスラム教徒人口が世界最大級）やマレーシアが中心的役割を果たしています。今後、ムスリム人口はさらに拡大していくことが見込まれております（下記の図を参照してください）

#### 東南アジアのムスリム人口の将来予測

単位: 百万人



#### 東南アジア各国のムスリム人口（2022年）

国	総人口 (百万人)	ムスリム人口 比率	ムスリム人口 (百万人)	構成比
インドネシア	275.5	87.4%	240.8	86.7%
マレーシア	33.9	63.5%	21.6	7.8%
フィリピン	115.6	6.4%	7.4	2.7%
タイ	71.7	5.4%	3.9	1.4%
ミャンマー	54.2	4.3%	2.3	0.8%
シンガポール	5.6	15.6%	0.9	0.3%
ブルネイ	0.4	82.1%	0.4	0.1%
カンボジア	16.8	2.0%	0.3	0.1%
ベトナム	98.2	0.2%	0.2	0.1%
ラオス	7.5	0.0%	0.0	0.0%
東南アジア	679.4	40.9%	277.7	100%

出典: JETRO「ASEAN主要国におけるハラール認証制度比較調査」

## ハラル産業に関わる政策・法規制

ハラル認証に関する政策・法規制はアセアン各国において大きく異なっております。例えば、イスラム教徒が国の大多数を占めるインドネシアでは食品や化粧品など様々な産業においてハラル認証の取得もしくは非ハラルであることの表示が義務となっている一方で、シンガポールやタイではハラル認証の取得が任意となっております（下記の図を参照してください。）

また、各国ではハラル認証機関も異なっております。そのため、製品を輸出する際に、日本の認証機関においてハラル認証を取得していたとしても、輸出先の認証機関と相互承認した日本の認証機関の認証で無いと各国で認められないなど、輸出をする際に各国の状況を鑑みた輸出が必要となります。

国	ハラル認証機関名	ハラル認証の取得義務	ハラル産業に関わる政策・法規制
インドネシア	• BPJPH	<ul style="list-style-type: none"><li>任意</li><li>ただし、「輸入食肉」はJAKIMもしくはJAKIM承認ハラル認証機関がハラル認証した食肉処理施設で処理した肉である必要がある</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ハラル製品保証法2014年第33号（義務化を規定した法律）</li><li>政令2021年第39号（実施規則）</li><li>ハラル産業マスタープラン2023-2029において、世界のハラル産業の中心となることを目指している</li></ul>
マレーシア	• JAKIM	<ul style="list-style-type: none"><li>食品、化粧品、医薬品、飲食店等において義務化されている</li><li>ハラル認証を取得するか、非ハラルであることを表示しなければならない</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ハラル認証取得事業者向けの優遇税制あり</li><li>ハラル産業マスタープラン2030において、ハラル産業のグローバルリーダーを目指している</li></ul>
シンガポール	• MUIS	<ul style="list-style-type: none"><li>任意</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ハラル認証は国内のイスラム教徒向けの環境を整えることを目的とした取り組みの一つとしての位置づけられている</li></ul>
タイ	• CICOT	<ul style="list-style-type: none"><li>任意</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>5年間（2024年～2028年）のタイハラル産業開発アクションプラン（工業省作成の草案）において、2028年までにタイを「東南アジアのハラルハブ」にすることを目指している</li><li>タイのハラル食品の輸出拡大とインバウンド需要拡大を目指している</li></ul>

出典: JETRO「ASEAN主要国におけるハラル認証制度比較調査」

## 日系企業のハラル市場への対応

アセアン市場で成功を収めるために、日系企業はハラル対応を積極的に進めています。以下はその具体的な事例です。

味の素株式会社は、インドネシアやマレーシアなどにおいてハラル認証を取得した調味料や食品を展開しています。例えば、マレーシアの現地法人は1965年以来ハラル認証を受けており、2021年にはJAKIM（マレーシア・イスラム開発庁）から「ベスト・マレーシア・ハラル認証保持者」として表彰されました。新しい工場もハラル認証のもとに食品製造を行っており、今後ますます需要が増加するグローバルのハラル市場に向けて、マレーシアからの輸出を強化しています。

また、外食産業の日系企業もハラル対応の製品展開を拡大しています。例えば、日本において人気な豚骨ラーメンブランドの一つである「博多一幸舎」を展開する事業者は、マレーシア1号店として豚骨ラーメンの店舗を展開していましたが、豚肉を食べることができないイスラム教徒にも自社のラーメンを楽しんでもらえるよう、2号店として「鶏ラーメン専門店」を出店して、ターゲット顧客を拡大することに繋がりました。ラーメン以外にも、様々な日系企業がハラル対応の外食店やメニューを展開しており、インドネシアやマレーシアにおける事業機会を拡大する取り組みを行っています。

三重県事業者の皆様も、今後のアセアン展開に向けてハラル市場の動向や認証、ならびにその他規制等についてご質問やご相談がありましたら、是非ともMISAまでご連絡頂けますと幸いです。